

# ほっかいどうの社会保障

2009年7月8日

北海道社会保障推進協議会

## SOSネット 7. 7街頭相談会・札幌派遣村

### 働く人々をモノ扱いする状況は、変わらず！ ～60人から80件の相談で深刻な事態が浮き彫り～

7月7日、好天に恵まれた札幌大通西10丁目で8張のテントを立てて「雇用とくらし相談会・札幌派遣村」を開きました。

今回は、市民・マスコミの注目も集めながら、初めて野外での相談会と炊き出しが行われました。

#### 職を失い、家賃も払えず、野宿生活

55才の男性は「コンピューターの仕事をしていましたが、いまはほとんど無い。市営住宅の家賃滞納分を払い退居したが、アパートを見つけないお金も



ない。大通公園で野宿4日目。まさか自分が路上生活とは……」と相談。すぐに生活保護を申請し、アパートも確保し「これで腰を据えて仕事を探します」と安心した様子でした。

「釧路で派遣切りにあい、仕事を探しに札幌に来たがいまだ無い。ネットカフェ、カプセルホテルで寝泊まり。お金が底をつき野宿」(34才)。「稚内の会社で解雇され、先月、定額給付金で札幌に出てきたが、ネットカフェ3日間、その後は野宿」(35才男性)。それぞれ生保申請とシェルターに入居できましたが、派遣切りや解雇で、仕事も、家も失う深刻な状況がいまも続いています。

#### 退職金と1ヶ月分の給与が払われない

24才の若者は「愛知県のトヨタ下請けで派遣の仕事。時給950円と他の人より高いということで人一倍1年間働いたが、5月に辞めた。会社は「勝手に出たのだから」と退職金も4月分の給与も払ってくれない。悔しい」と相談。労働組合に加入し、派遣会社と交渉することになりました。

#### 相談員に、ボランティアに続々と参加、140人を超える！

相談員には、各団体から73人が参加し、専門的な相談に応じました。初めて「心の病」の相談にPSW(精神保健福祉士)が参加しました。ボランティアにも69人が参加。「札幌派遣村」の旗をみて、その場でボランティアの申し出も数件ありました。なかには専門学校の学生が「福祉と労働は社会全体の問題なので、たまたま通りかかって興味を持ちました」と3人が訪れ、早速、プラカードをもって、会場周辺の宣伝に参加しました。

また、これまでの相談を訪れた15人が、元気に会場設営や宣伝にと大活躍しました。

#### 炊き出し「食堂」も大盛況！

400個の「おにぎり」と200人分の「冷やしかしわうどん」は、新婦人や勤医協友の会、道生連、精神障害者を支援する会などのみなさんが早朝から準備しました。お昼には「いらっしやい」と元気なボランティアの声に誘われ、テント3張の「食堂」は満杯。「おいしい、ありがたい」と大好評でした。

